



中尾 歌舞伎 定期公演

昨年多くのご支援をいただき再開した中尾歌舞伎。今年も皆様のご期待に恩返しをするつもりで定期公演を行います。ぜひ多くの方に「中尾座」へ足をお運びいただき、大きな声援をお送りくだされば幸いです。

日時

平成31年

4月29日 【祝日】

午後0時30分 開場 / 午後1時30分 開演

場所

「中尾座」

(長谷伝統文化等保存伝習施設)

演目

絵本太功記十段目

尼ヶ崎の段 (裏面にあらすじ有)

入場
無料

地元の長谷中学校生徒が
初出演!

回り舞台の演出もあります!



前座として長谷小学校5年生による
創作歌舞伎「お鷹岩井筋物語」の
演劇上演があります。(40分程度)

●公演当日、会場に「移動販売車」が来て、お弁当や飲み物(お酒・ビール・お茶)が購入できますのでご利用ください。

※駐車場及び会場内は収容数に限りがあり、場合によっては全員が入場できないこともあります。誠に申し訳ありませんが、ご理解とご協力をお願いします。

お問い合わせ

信州伊那中尾歌舞伎後援会(長谷公民館内)

電話(0265)98-2009

絵本太功記十段目 尼ヶ崎の段

「あらすじ」

「武智光秀(明智光秀)」は、主君である「尾田春長(織田信長)」の乱暴で勝手気ままな振る舞いに堪えかね、本能寺にて春長を討った。

それが天下万民のためと信じての戦であったが、同じく春長に仕えていた「真柴久吉(羽柴秀吉)」は、光秀の裏切りを許さず、二つの軍は対峙した。

一方、封建道徳を守る光秀の母「皐月」は、主君に反逆した光秀を許さず、尼ヶ崎に隠居していた。そこへ、光秀の子「十次郎」が母の「操」(光秀の妻)に連れられて、久吉軍との戦への出陣の暇乞いに訪れた。

十次郎が討ち死にの覚悟であると悟った皐月は、心残りのなような許婚の「初菊」と祝言をあげさせて送り出す。

そこへ戦地にいた光秀が、僧侶に化けてこの隠居へ逃げ込んだ久吉を追って現れる。隠れている久吉と思い込み、障子越しに竹槍を刺すと、なんと相手は実母の皐月であった。深い傷を負い、苦痛をこらえながら我が子光秀をいさめる気丈な皐月。

そんな中、負傷した十次郎も戦地から戻り、味方の敗走を光秀に報告する。自分が瀕死の状態ながらも、父の身を案じる健気な十次郎。そんな十次郎を祖母の皐月は不憫がる。

また、夫の起こした戦のために息子を失う操と、祝言を挙げたばかりで夫を失う初菊の悲しみ。負け戦と知っていきり立つ光秀も、母の皐月と息子十次郎の死を眼前にして耐え切れず、つい涙を流す。

そして、進退窮まった光秀の前に、久吉とその部下加藤清正(加藤清正)が現れ、天王山で優劣を決する約束をして幕となる。

おだ はるなが
尾田 春長 (織田 信長)

主従関係
↑
反逆

光秀の家族

親子

皐月
(光秀の母)



操
(光秀の妻)



夫婦

武智 光秀
(明智 光秀)



親子

初菊
(十次郎の許嫁)



許嫁

十次郎
(光秀の子)



敵対

真柴 久吉
(羽柴 秀吉)



春長の臣

主従関係

加藤 清正
(加藤 清正)



※ 写真と実際の役者は異なります。

武智 光秀	: 中村 徳彦	浄瑠璃	: 西村 篤
妻 操	: 石川 裕美		: 植木 義和
子 十次郎	: 伊藤 康希 (長谷中3年生)	三味線	: 北原 美香
許嫁 初菊	: 平山 直子	拍子木	: 根橋 敏也
母 皐月	: 唐澤かおる	黒子	: 伊東 敦
真柴 久吉	: 清水 裕介		
加藤 清正	: 松田 元伸		

相関図